

## 「従順は皆に知られている」

2018年11月08日

ローマの信徒への手紙 16章 17節～23節 兄弟たち、あなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに反して、不和やつまずきをもたらす人々を警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。こういう人々は、わたしたちの主であるキリストに仕えないで、自分の腹に仕えている。そして、うまい言葉やへつらいの言葉によって純朴な人々の心を欺いているのです。あなたがたの従順は皆に知られています。だから、わたしはあなたがたのことを喜んでいますが、なおその上、善にさとく、悪には疎くあることを望みます。平和の源である神は間もなく、サタンをあなたがたの足の下で打ち砕かれるでしょう。わたしたちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。わたしの協力者テモテ、また同胞のルキオ、ヤソン、ソシパトロがあなたがたによろしくと言っています。この手紙を筆記したわたしテルティオが、キリストに結ばれている者として、あなたがたに挨拶いたします。わたしとこちらの教会全体が世話になっている家の主人ガイオが、よろしくとのこと。市の経理係エラストと兄弟のクアルトが、よろしくと言っています。

パウロは、「兄弟たち、あなたがたに勧めます」と語りかけ、諸々の勧告をしている。一度も訪ねたことのないローマ教会にというより、牧会経験のある教会に語りかけているような響きがある。まず、キリストの福音に反する教えをする、不和やつまずきをもたらす人々を警戒し、遠ざかりなさいと勧めている。彼らは、主であるキリストに仕えないで、自分の腹に仕え、うまい言葉やへつらいの言葉で純朴な人々を欺いているからである。フィリピ書3章19節でも、「彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません」と書いていた。

厳しい勧告に続いて、「あなたがたの従順は皆に知られています。だから、わたしはあなたがたのことを喜んでいますが」と、兄弟たちのキリストへの従順が皆に知られていると喜び、彼らへの信頼を語っている。教会には悩ましい問題が起こるが、それらを超えて、信頼と愛がある。信頼と愛が人々を再起させるのである。パウロは、この信頼の言葉を必ず語っている。「なおその上、善にさとく、悪には疎くあることを望みます。平和の源である神は間もなく、サタンをあなたがたの足の下で打ち砕かれるでしょう。」平和の源である神が、キリストに仕え、善に敏く、悪に疎い者たちの足の下で、どんなサタンをも打ち砕く。「わたしたちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。」祝福の祈りである。

「わたしの協力者テモテ」は、パウロの第二宣教旅行の際に、リストラで出会った若者で、父はギリシア人、母は熱心なユダヤ人クリスチャンであった。パウロはテモテと会った時、彼の真面目で、一途な信仰を見抜き、宣教旅行に同行させた。以来、テモテはパウロを父とも仰ぎ、従い、忠実な弟子になった。パウロの代理として彼が出かけた折には、よい報告をパウロに伝えている。良い師は良い弟子を持ち、育てるのであろう。

「同胞のヤソン、ソシパトロ」「家の主人ガイオ」「市の経理係エラスト」などからもよろしくと伝えているが、彼らは、テサロニケ、エフェソ宣教において、騒動に巻き込まれて、苦勞をした面々である。特筆しなければならないのは「この手紙を筆記したわたしテルティオ」である。目が不自由なパウロの口述をしたテルティオがパピルスにカリカリと書き綴った文字が私たちへ届いている訳である。彼の働きは計り知れないほど大きい。